

## 1 或る朝は

或る朝は体操をしてみた  
或る朝は老人と別れた  
アメリカの少女のスカートがまくれて  
椿の花のだんだら模様がまくれあがつて

彼の目の上におほひかかつた  
老人は彼に説明した  
財産を持つてゐたのだが この頃  
合法的に追ひつめられてきてゐると

それで白髪になり元気がなくうしろ姿がさびしさうなのだ  
彼は寝る前にべとつくブドウ酒をこぼしたりした  
一日は同じやうにしてすぎ去る

彼の見る夢はいろいろである  
或る朝は老人でなくて彼自身が身体中に  
ナイフをあびて道に倒れてゐた

## 2 杉の木

杉の木の子びえ立つあひだの白い台の上で  
この世の光をはじきかへしてゐる二人の男  
うぐひすの声と目白の声とまざりあつて  
二人のすることは声にあはせて動くことであつた

あれよ 高い所にあるな 二人は 見事に  
肩を組んで同じうたを見事にうたつて  
台の下に 木の節の穴を通して 日の光が射しとほる

台の上で二人が動くたびに はげしく二人が動くと  
あちらに一つ こちらに一つと 丸いふちが  
台の下の杉の葉のあひだにゆれる

身分のちがふ 愛しあふ二人の男が  
別れる頃には 次第に  
闇が下から穴をうめはじめる

### 3 彼は

彼は帰つて来ないであらう  
窓からは雪が木の梢にふりかかるのが見える  
一人の男が木の下を通つて  
我々には彼が小さく雪の中に消えて

長靴のあとさへがもう見えなくなつた  
我々はもとの我々にかへつた  
私の顔をやはらかい両手につつんで  
女が唇をひらいて笑つた

舌のつけ根まで見せて笑つた  
絶対に帰つて来ないであらうと  
私は果してさうなるかと疑ひはじめた

木の梢からもう一度離れて地に落ちる雪  
女の笑ひをあび 速度を早めて  
私に突き進んで来る彼